

樋口 みな子さん



会員向けミニコミ誌「銀河通信」を発行して30年になった。

環境や人権問題などを時事問題に重ねてつづり、江別から発信する。7月下旬の2008号で「小さな声を届けたいと思った」と創刊時の動機を振り返った。「小さな声も集まると大きな力になる。私のような普通の主婦が感じたことを伝え続けたい」

長男の生まれた1986年にチエルノブイリ原発事故が起き、社会問題への関心が高まった。2年後の夏、B4判の表裏

に手書きで創刊した。今は2カ月に1度、A4判8頁をパソコンで編集する。当初20人だった読者は今、インターネット会員と、年間千円で郵送する会員が国内外に計600人いる。「読んでるよ」「次号も楽しみ」という読者の声が何よりの励みだ。

脱原発や自然保護、平和や人権擁護など題材は幅広い。沖縄の戦跡やアウシュビッツ強制収容所を訪ねたルボも書いた。安全保障関連法が成立した3年前の夏は反対集会やデモに連日通い、紙面で紹介した。「自分で見て聞いたことを自分の言葉で伝えることにこだわっている」と話す。心に残った本や映画も毎号4、5本を紹介している。

日高管内平取町生まれ。大阪の企業や旭川の病院の臨床検査技師を務め、85年、結婚を機に札幌へ。今は江別市内で天文好きの元中学教諭の夫澄生さん(65)と暮らす。「銀河通信」には「夜空の星のように多くの人に届きますように」との願いを込めた。69歳。(関口裕士)